

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成28年9月30日 NO.51 (351)

・・・ということで、虫って、いろいろといるんだよ！

虫って、いろいろなグループがあるんだな。

それでは、みんなでお外に行こう！

早くお外に行きたいよー！



オー君 「あれあれ？校長先生こうちょうせんせいがいるね。何かなにやっているようですね。」

花ちゃん 「3年生ねんせいの理科りかの授業じゅぎょうのようですよ。」

オー君 「黒板こくばんには、たくさんかみの紙かみがはってあるね。」

花ちゃん 「どんな授業じゅぎょうだったのかな。」

3年生 「みんなで虫むしの当てあっこあをしたんです。」

3年生 「校長先生こうちょうせんせいがかかれた絵えを見て、どんな虫むしかあを当てあたんです。」

3年生 「校長先生こうちょうせんせいが、『みんなよく知しってるね。えらいね。すごいね。感心かんしんだね。すばらしい。』と、たくさんほめてくれました。」

3年生 「虫むしの当てあっこあをした後あとに、虫むしのグループわけもしたんです。」

3年生 「校長先生こうちょうせんせいから、虫むしはたくさんしゅるいの種類しゅるいがあって、名前なまえを知しるのはたいへんだけど、大切たいせつなことは、どんなグループかしを知しることだよ、というお話はなしがありました。」

3年生 「教室きょうしつで楽しくお勉強たのした後は、あみとかべんきょう持って、うら庭あとに行にわって虫いをゲットむししたんです。」

3年生 「いろいろな虫むしがいたね。」

3年生 「たくさんいたね。」

3年生 「チョウも、^と飛んでいたね。」

3年生 「ひらひらと、^と飛んでたね。」

3年生 「バッタも^み見つけたよ。」

3年生 「ぼくは、2匹^{ひき}もゲットしたよ。」

3年生 「いいな。わたしはゲットできなくて^{ざんねん}残念でした。」

3年生 「またみんなで行くから、^{こんど}今度は
かならずゲットできるからだい
じょうぶだよ。ドンマイさ。」

3年生 「^{きもわる}気持ち悪い^{ようちゆう}幼虫がうじょうじょ
いたね。」

3年生 「ガの^{ようちゆう}幼虫だと^{おし}教えてもらったね。」

3年生 「カマキリもつかまえたね。」

3年生 「クモは^{むし}虫ではないけど、

シヨロウグモというクモがいたね。よく見るととてもきれいなクモだったね。」

3年生 「ほかに、みんなでいろいろとゲットしたね。」

3年生 「ハサミムシ、ダンゴムシ、アリ、ハチ、トカゲ、ムカゲ、キチョウ、シジミ
チョウ、モンシロチョウもいたね。」

3年生 「^{くにたちなしょう}国立七小は、いろいろな虫を^{むし}学校で^み見ることができて、^{がっこう}いい学校だな。」

3年生 「これからも、みんなでたくさん^み見つけよう。」

3年生 「ぼくは、^{こうちゆうせんせい}校長先生がくれた『おみやげ』のプリントでたくさん^{べんきょう}勉強するぞ。」

昆虫少年という絶滅危惧種

網を持ち野山を駆け巡る昆虫少年が消えた。昆虫採集する子供がいなくなった。たまに昆虫標本を夏休みの自由研究でやってもあんまり評価されなかった。その一方、日本の自然がどんどんと破壊され消えていった。人が自然から離れてしまったために、本物の自然が壊されていることに気付かない事態となってきた。カヤヘビに心配することなく、きれいな場所で大勢の人の中で放たれたホテルを見て自然を満喫したと思ったり、植林されたスギ・ヒノキの林を見て、雄大な自然が残っていると勘違いしたりしている。こんな悲しい状況であるが、少しずつこの現状を憂える人々が少しずつ動き出している。「自然に関心を持たせる方法として、昆虫採集は、優れた方法の一つだ」と日本昆虫協会が設立されたのは、1991年である。手入れの行き届いたきれいな公園ではなく、自然の空間という意味でのビオトープ作りなどもあちこちで試みられている。著名人の随筆に「子供の頃、昆虫採集に夢中になった経験は大変貴重だった」というものをよく目にする。昆虫採集は、科学の出発点になるだけでなく、自然に触れて自然の中で考えることで、人間形成の上でも大変重要な役割を果たしているのである。

